

乱暴な言葉や態度を示す子





小学3年生のとしお君は、気に入らないことがあるとすぐに怒ります。

時には、「うるせえなあ！」などと乱暴な言葉を繰り返すこともあります。



1年生, 2年生の時にこんな姿を……………

- 授業中に席を離れ, 歩き回ってしまう。**
- 落ち着きがなく, 絶えず体を動かしている。**
- 家庭や学校で頻繁に叱られていた。**
- 周りの人からも否定的にみられていた。**
- 「どうせ, オレはダメだよ!」とよく口にしていた。**

**どうして乱暴な言葉や態度を
みせるのだろうか？**

その背景は何？



推測できるつまづきの要因

- ① これまでの不適切な対応による低い自己評価, あるいは自尊感情
- ② 感情や行動の抑制／コントロール, 自分の行動を振り返ることの困難
- ③ 周りの状況を理解することが困難
- ④ ことばの理解力の問題

そこで！

実態把握のポイント！



★ これまでの経緯を十分に考慮して、
問題の要因や背景を整理する。

※どんな時に、どのような状況で、どのような
気になる行動を見せているのか、記録に残しな
がら把握する。

指導の実際

としお君の先生は、こんな取り組みをしました。

- 1. 気持ちを十分に受け止めて落ち着くまで冷静に待つ。落ち着いたら一緒に状況を整理し、どうすべきだったかを考える。**
- 2. 子どもが気持ちを落ち着かせる場所を用意する。**
- 3. 学校全体で対処法について考え、共通理解を図る。**
- 4. 衝動性等の特性に配慮して、子どもが成功体験を積めるようにしたい、ほめたいする。**

指導のポイント①

気持ちを十分に受け止めて落ち着くまで冷静に待つ。落ち着いたら一緒に状況を整理し、どうすべきだったかを考える。

★危険を伴う行動に対しては毅然とした態度で制止する必要がある。

→興奮している時は、周りの制止の声でさらに気持ちが高ぶることがあるために、その場を離れ、落ち着いた口調で話を聞く。

指導のポイント②

子どもの気持ちを落ち着かせる場所を用意する。

★子ども自身にも落ち着ける場所を確認する。

★保健室， 図書室， 校長室， 相談室・・・。

→子どもの気持ちが落ち着く緊急避難場所が
決まっていると安心

指導のポイント③

学校全体で対処法について考え、共通理解を図る。

★興奮がおさまらない時

★教室・学校を抜け出した場合 等

→校内の連絡，対応を整える。

→インターホン，連絡カード，携帯電話 等

★周囲の子どもへの指導，対応などの役割
分担を決める。

指導のポイント④

衝動性等の特性に配慮して、子どもが成功体験を積めるようにしたい、ほめたいする。

★子どもが「できた！」と思える経験を増やしていく。

→失敗があっても、前向きに取り組んだことを認め、褒めてあげる。

★「今はできない。」「やめてほしい。」等の嫌なことや拒みたい時の言葉が言えるようになる。

★言葉で表現できたことを、大いに褒める。

★自分の気持ちを伝えられる人を見つける。

→担任、友達、養護教諭、図書司書 等

より個に応じた指導

乱暴な言葉や態度を示す子の背景を理解する必要がある。

- 不適切な周囲の対応（環境要因など）が背景にある場合
- 発達上の困難を抱えている（例：ADHD）場合

子どもの自己評価を高め、自尊感情、自己肯定感、自己有能感を育む。

- 子どもの内面を受け止め、成功体験の機会を増やす。

自分自身の感情をコントロールし、様々な問題を解決していく力を育む。

- 個別、小集団の中で、嫌な感情や望ましい行動について考えさせる。（ロールプレイ、ソーシャルスキルトレーニング等）
- 行動の結果の原因を意識し、気持ちを切り替える活動。



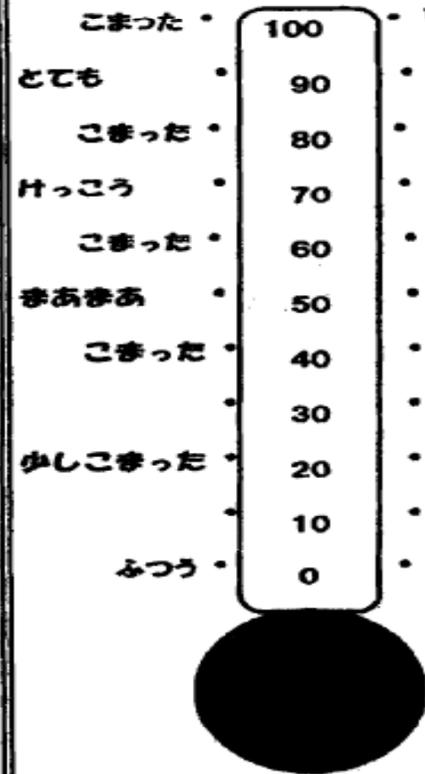
< おん こん けい 計 で はかろう >

教材例

自己理解、特に自己の感情理解と行動の振り返りから適応行動につなげる

☆今までにこまったことがあったときの、気持ちをはかろう。

さいごうに



- ・宿題をやり忘れた
- ・給食できらいなものが出た
- ・道に迷って、迷子になった
- ・おぼろして、学校に遅刻した
- ・電車のきっぷをなくした
- ・友だちに「お金をかして」と言われた

☆ 100%を考えよう。

今日の感想

	よかったところ	なおしたほうがいいところ
自分		
ペアの人 ()		



**乱暴な言葉や態度
を示す子の場合**

注意欠陥・多動性障害（ADHD） の子どもたち

留意点

- 気になる行動はADHDそのものと直接関係するものではない。
- 周囲の不適切な対応が原因となって重なり、二次的に現れる。
- 必要に応じて、医療や専門の相談機関との連携を図る。

乱暴な言葉や態度を示す子



終わり
担当：大城政之

「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド(2005)」より